



会議は各委員会の事業報告から始まりました。レース委員会外洋小委員会の三浦信郎次期委員長はレース公示のひな型を作ろうとしていること、またRRS 55の扱いなど最新の話題に触れて報告を進めました



これだけのメンバーが集まると進行も大変。2日目に行われた加盟団体、特別加盟団体の報告では持ち時間5分を使い、各団体の報告が次々と行われました

## 外洋合同委員会会議

# オフショア情報共有の場として 密度ある2日間

2月1日、2日、外洋合同委員会会議が函館市で行われました。本会議は、JSAF外洋関係の各団体の情報交換の場として年に1度開催されており、今年は28団体62人が参加しました。

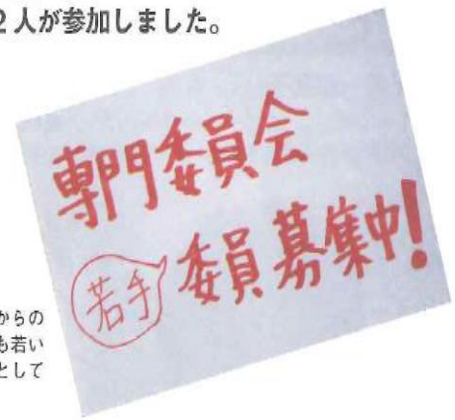
委員会ごとの会議を開催してはいましたが、全ての委員会に出席するため何度出張せねばならず、大変に不効率で、そのため各委員会の出席率

低く、規定の運用の全国的な周知が行き渡らなくなりました。こうした状況を打破し、全ての外洋加盟団体および特別加盟団体が全国的な規則や規定の運用を行うために、2009年度に外洋計測委員会を中心となり、外洋系委員会の合同会議が始まりました。

### 開催の経緯

本会議の開催の経緯を「開催案内」から紹介します。

会場に貼られたベテランからのメッセージ。どの委員会も若いパワーと女性の力を必要としているのです



### 密度の高い2日間

右記のような経過で始まった本会議ですが、その目的は「公平感のある円滑なレース運営」を目指すことにあり、そのための「各種規則や規定の解釈、統一された見解等についての説明」と「加盟団体・特別加盟団体の役割の説明」が会議の中心となりました。

また全国の外洋系加盟団体が一堂に集う貴重な場なので、各地の現状報告やセーリング界の将来像を検討する時間を持つました。また今回は会議終盤で東海ミドルボートクラブ会長の中村孝さん、(ベンガル7)チームの原健さんによる講演もあり、密度の高い2日間となりました。

今回の会議の会場は、南北海道外洋帆走協会の尽力でセッティングされました。そして来年の開催地は長崎市に決まり、会場の設営は長崎県セーリング連盟外洋部会にお願いすることになりました。

このように、全国各地を巡り開催されるのも本会議の特徴の一つです。過去、神奈川県三浦、鹿児島、仙台、沖縄と経巡っており、日頃会議の行われ



会議参加者とゲストが入りまじってのパーティは情報交換と親睦で大いに盛り上がりました

る機会が多い東京で開催するのではなく、様々な水域を訪ね各地の状況をナマで見ると有意義です。今回、本会議の後に北海道のメンバーを対象に大坪外洋安全委員長による安全講習会も開催されました。このように場所と時と人を得れば、この会議の有効活用はもつと広がるはず。植松貞JSAF副会長は、「2日間に集中して、一カ所で様々な情報が交換できるこの会議は非常に有意義で、効率的でした。主要な関係者が集まるので空き時間に様々な打ち合わせができるし、新たな人脈も築け、旧交もあためられる。来年は長崎開催とのこと、今から楽しみです」と初参加の感想を語りましたが、将来的にはこの会議、同時にいくつかの会議が進行し、様々な事柄が並行して議論される、日本版ISAF年次総会の様相を呈することになるのかもしれない。